

原井の三則
☆場を清める
☆時間秩序を正す
☆人間関係を高める



第210号 令和5年
9月15日(金)
発行・原井小学校
TEL.22-0863

原井の宝 スタインウェイピアノ

今月は 旧片庭校舎 後館中央階段を再現した 現校舎の「多目的ホール」に湿度管理を行いながら置かれている「スタインウェイピアノ」についてお伝えしたいと思います。

みなさんは「このピアノの由来」をご存じでしょうか。なぜ「原井の宝」といわれているのでしょうか。

私は ピアノの修復復元に ご尽力いただいた 本校の卒業生であり石央文化ホールの館長であった 故 岩町 功氏が残された 「スタインウェイ・ピアノと音楽教育」に記述されている「このピアノの由来や このピアノに込められた願い」を多くの方々に知っていただきたいと思っています。

このピアノがなぜ「原井の宝」といわれているのか 開校百五十周年を



迎えた子どもたちに伝えていくことも私の使命であると感じています。

- 1 このピアノは、1923年(今から100年前)ドイツで作られ日本へ!
 - 2 1933年 その前年に全焼した校舎の建て替えに伴い完成した 新校舎(片庭校舎)に ぜひ! と後に 初代浜田市長に就任された 山崎義一氏(保護者会長)を中心に後援会が組織され、寄付金集めに奔走。当時 500円出せば家が一軒建つ時代に、2405円もの大金を捻出し、「未来を担う子どもたちに最高の音楽教育を!」という思いから購入を決断。以後、原井の音楽教育の礎に!
 3. 1954年「開校80周年記念事業」の一環として、当時のPTA会長であった 小早川国男氏の働きかけにより修復。(以後、ピアノに込められた思いから 再度使用不能になっても廃棄処分せず)
 4. 2004年 コンサートのため来校された 主催団体の理事長さんから 音楽室の隅に倒れないように縄で固定されていた使用不能のピアノが 世界中のピアニストたちから絶大な信頼を集めている「スタインウェイピアノ」であると 驚きをもって伝えられ ピアノの価値を知ることとなる。(1923年 以前に製造されたスタインウェイピアノを所有している学校が全国に四校あると判明)
 5. 2004年 「いのちある(修復可能なら)再生させよう。再生して 地域の音楽教育の発展に寄与しよう。我々は この名器を 次代の子どもたちに伝える責務がある。」と 新校舎(港町校舎)改築期成同盟会会長の 田中瑞穂 氏のご尽力により 地域や卒業生の方々からの寄付500万円により修復再生。
 6. 2005年10月、新築された体育館にて「復元記念ふれあいコンサート」を開催。現在に至る。
- 岩町 功氏は文章の最後に、「八十年前のピアノが甦った。このピアノが次の八十年に向かって原井校の音楽教育や地域の音楽文化を高める珠玉の宝となって次代の子どもたちを育ててくれることを切に願っている。」と綴っています。 **なぜ 何が“宝”なのでしょう?**